

第7回 下水道管路の包括的民間委託検討部会	
日 時	令和3年9月13日(火) 10:00~11:20
開催場所	WEB開催
出席者	滝沢部会長、川北委員、高橋委員、鴨志田委員、原委員
欠席者	なし
開催形態	公開
議 題	1 本検討部会の開催経過と契約結果の報告 2 審議過程に対するレビュー 3 提案内容の評価に対するレビュー 4 今後の進め方
議 事	開 会 1 下水道管路部長挨拶 ○横浜市 これまで本市初となる、下水道管路施設の包括委託の導入に向けてご審議 いただけてきた。お陰様で、本年4月26日に中大口径管の包括的民間委託の契約を 締結することができた。本日は契約内容の報告をした後、これまでの審議の振り返り から課題を整理させていただき、今後の参考としていきたい。 2 資料確認 ○事務局 次第 Word 資料1 第7回検討部会説明資料 PPT 3 会議成立の確認 ○事務局 全5名の委員が出席であり、本日の検討部会は成立。

議 事（資料の説明については省略）

1 本検討部会の開催経過と契約結果の報告

○事務局 資料1 議題1 「本検討部会の開催経過と契約結果の報告」に基づき説明。

○滝沢部会長 調査を実施した陥没現場は下水起因のものであったのか

○事務局 深くに埋設されている中大口径管の破損が原因で陥没が発生したことが懸念され、緊急調査を実施したが、調査の結果、深くに埋設されている中大口径管に陥没に起因するような異常は確認されず、浅くに埋設されている管に対し、対応を行った。

○滝沢部会長 その後の対応はどこが実施したのか。

○事務局 横浜市が直営（行政区毎の土木事務所）で対応した。

○滝沢部会長 了解した。

2 審議過程に対するレビュー

○事務局 資料1 議題2 「審議過程に対するレビュー」に基づき説明。

○鴨志田委員 ①午前午後で共通の提案者がいた。結果として午前参加の提案者から午後参加の提案者へ質問内容が共有されていた。次回以降オペレーションの工夫が必要。②公募プロポーザルを通じて、より良い企業の参画や市内企業の育成などが目的であると思うが、結果として北部2者、南部1者となった。事案の告知として、今後より多くの企業の参加を促すこと等、議論が必要と考える。③傍聴者に関して、確認の意味も含め状況を教えてほしい。

○事務局 ①オペレーションについては次の議題3で議論させていただく。②告知について、延べ3回サウンディング調査を説明会形式にて実施している。横浜市の現状・課題や包括導入の検討等検討部会の第1回説明と同様の内容で実施し、アンケート調査を実施した。アンケートの結果を踏まえて事業スキームを徐々に絞り込んでいくとともに、参加者も徐々に絞りこまれていった。説明会等サウンディングを重視し、あわせて告知を実施してきたと考えている。競争性等踏まえ広く周知できる手法等を今後模索している必要があると考えている。

③傍聴者について、第1回検討部会の途中までは公開、その後は第6回まで非公開で実施した。これは契約内容や技術提案等の秘匿性を考慮して評価基準等オープンとなっていない情報を検討するため非公開とした。本日は契約が決まった後であるため、公開とした。

○**鴨志田委員** 今回は公募に参加していないが次回以降の参加を検討している企業もいると考えられる。時間や人手をかけて参入の準備をすることも予想され、全く情報を示さないことについてもリスクがあると考えられるため公開内容について検討してほしい。

○**高橋委員** 試行錯誤してスキームを決めていくプロセスは仕方ない部分である。事前に事務局から資料がもらえたので議論しやすかった。ただし、スライドを見れば理解できるので、単に読み上げる説明は見直してほしい。限られた時間でしっかり議論するには、会議冒頭の幹部職員による儀礼的な挨拶も不要と考える。大学や総務省等、他の会議はリモートでの開催が当たり前のなか、なぜこの会議だけ去年ずっと対面であったのかが気になっていた。本検討部会もリモートで実施可能な会議であったと考える。

○**事務局** プレゼンテーション力の向上については研鑽に努めていく。資料についても要点を絞ってお示しできるよう改善していく。昨年度は緊急事態宣言の中で対面方式での開催で日程調整させていただいたが、今後は極力リモートで会議を実施する方向で進めていきたい。その際、資料の回収の情報管理等の点で、対面や紙面での開催が好ましい場合もあると考えており、開催形式については状況に応じて相談し、ご教授いただきながら進めていきたい。

○**川北委員** 委員は下水道分野に特化した専門家だけではない。委員が審議する部分とそうでない部分について検討部会の開催過程で仕分けられたが、最初の段階で明確に整理してから進めたほうが良かった。

○**事務局** 定量的評価、定性的評価での仕分けに関しては委員のご意見により改善させていただいた。次回以降は定量・定性の評価項目の仕分けのみならず、評価前段における事業スキームについても丁寧にご説明させていただきスムーズな意見交換の実施に努めたい。

○**原委員** 評価項目の選定が大変であった。試行錯誤して改善していくのは仕方ないことであり、今後も必要である。検討部会委員が何をどこまで評価できるかの仕分けについてはあらかじめ事務局で整理したものを検討部会で議論して詰めていきたい。

○**事務局** 各委員からいただいた意見は、まさにその通りだと思う。本日いただいたご意見はとても貴重であると感じている。参加意欲を増す手法、リモートの活用等会

議の進め方、評価委員会の運営等、短時間でたくさんのご意見をいただけるよう会議の進行を工夫していきたい。

3 提案内容の評価に対するレビュー

○事務局 資料1 議題3 「提案内容の評価に対するレビュー」に基づき説明。

○鴨志田委員 ①評価の仕分けを見直してほしい。限られた時間の中で評価を行うため、事務局で失格要件等の評価をするなど、検討部会の中で何を審議すべきなのかについて整理してほしい。②結果として応募者は北部2者、南部1者であった。これまで下水道事業に携わってきた市内企業の割合が高くなっているが、市内でこれまで下水道事業に関与してこなかった企業の発掘や、市外で活躍している優れた企業を呼び込んでくることもイノベーションの観点では重要である。公募による活性化を図る意味でも提案者選定条件や参加について横浜市から積極的に声掛けしていくことも必要と考える。③相対的に評価しにくい部分があった。他の委員同様、当日午前午後オペレーションについても気になる部分があった。

○事務局 ①仕分けについては各委員からご意見をいただいております改善が必要であると考えている。②今回は第一期の包括委託であり、これまで横浜市で実施してきた調査・清掃・修繕に関して、安定的・継続的という観点で実績にウェイトを置いた資格要件とした。今後は公募の活性化に関しても取り入れていく必要があると考えている。サウンディングに伴う説明会を3回開催した中で、下水道以外の分野の企業からもご意見をいただいたところであり、他分野からの事業参加の意向があることを認識している。今後は継続性・安定性に加え、発展性も加味していきたいと考えており、引き続き委員の皆様にご意見をいただきたい。③事務局から委員にお願いすべきことについて、事前の仕分けを初期の部会でお示しし、共有する必要を認識している。評価の段階数についても4段階なのか5段階なのか、加点のみでいいのか、減点要素も必要か等、仕分けることによって明確になると考えている。

○原委員 ①4段階評価とするか5段階評価とするか、また、加点方式とするか基準点からの加点/減点方式とするかについては事前の事務局が何を確認するかとも関係する。基準点方式の場合にはどこまで減点されると失格となるのか、資格要件を満たしている前提での評価であれば加点方式とするなど事前に整理をしておく必要がある。公募資料を作成する中で、どのような提案を引き出したいか、どこを評価するのかを横浜市として明確にしておく必要があると考える。②市内企業を重視するのであればWTO案件に当てはまるかどうかについて確認しておく必要がある。③ヒアリン

グ当日のオペレーションについて情報管理の観点から検討が必要である。

○事務局 ①横浜市の意向が各委員にしっかりと明確に伝わっていなかったとのこと意見は今後の参考にしたい。また、イノベーションの視点を踏まえ、複数業務をどのような領域の企業で担うことが理想なのかについて今後検討を進めるうえで参考となるご意見をいただいたことを認識した。

②WTO対象かどうかについては今回の案件は工事ではなく委託業務であることや主たる業務内容について、所管局である財政局に確認し、WTO対象外の案件であることを前提とした中での審議とした。

○川北委員 ①今回は市内中小企業の参画や実績を重視したが、全体の運営管理は市内中小企業では難しいと感じた。大手企業と中小企業を組み合わせるほうが参加しやすかったと考える。他都市での実績なども考慮したほうがよいのではないかと。②横浜市内の企業による構成で市内を2つに分けるか、市内一円としてその中に市内中小企業が入るか検討すると良いと考える。横浜市内の業務実績の評価であったので、他都市での業務実績も評価できると良かった。

○事務局 ①統括マネジメント業務、詳細調査業務については新技術を期待することができるため、市内企業限定という制限を緩和している。結果としては準市内企業と市内企業の組み合わせのJVと契約をしている。②対象エリアについてサウンディング調査の中でいろいろな意見があった中で検討した結果、市域を2分割とした。今後はサウンディング結果等を踏まえ事務局で咀嚼しながら委員に共有し、ご意見をいただきたい。他都市の事例についても今後増えていくことが想定されるので、JV実績等の評価についても検討していきたいと考える。

○高橋委員 機材の保有数が業務遂行能力につながるのか等、疑問を感じる部分があったので改善の余地がある。提案者数が少なかったため点数がつけやすかったが、提案者数が多かったら困難であった恐れもある。

○事務局 下水道の専門技術と各委員の評価の結び付きについては今後検討していきたい。提案者が多くなった場合には今回の評価方法では採点が困難との貴重なご意見として受け止めたい。評価を仕分けるとともに、横浜市が何を期待しており、委員に何を評価してほしいのかを明確にすることが重要と考えているので、検討したいと考える。

○滝沢部会長 試行錯誤はあったが手順としてはよく進められていた。本日のご意見を今回の教訓として、今後の検討に反映させてほしい。評価の段階数や、どのような

	<p>ところを評価するのか。失格要件についてもさまざまな考え方があるが、事務局が事前に確認し失格とする都市、委員が最低点をつけることによって失格としている都市もある。失格要件や評価の仕方について再度整理していただきたい。</p> <p>今回、南北とも同じ企業で構成されているJVが受託しているが、今後も公募プロポーザル等の提案者の評価にあたっては、経験がある企業が有利になってしまうことが懸念されており、他都市でも同じようなことが課題として出てきている。長期的な見通しも踏まえ、提案者側の立場に立ち、民間が提案・参画しやすい仕組み作りの検討が必要である。評価の視点だけでなく、公募プロポーザルのあり方、仕組みを踏まえてしっかりと検討してほしい。他都市とも情報交換しながら進めてほしい。</p> <p>4 今後の進め方</p> <p>○事務局 資料1 議題4 「今後の進め方」に基づき説明。</p> <p>日程は今後調整</p> <p>閉会</p>
資 料	資料1 第7回下水道管路の包括的民間委託検討部会 説明 PPT